

明治記念大磯邸園

Meiji Commemorative Ōiso Residences and Gardens



利用案内

所在地

〒255-0004 神奈川県中郡大磯町東小磯 295 ほか



アクセス

■公共交通機関

最寄り駅 JR 東海道線「大磯駅」下車

徒歩 15 分位（距離 約 1.2Km）

バスは大磯駅前 1、2 番線乗場

「二宮駅行」、「西公園行」、「大磯プリンスホテル行」

乗車時間 3 分、「統監道」下車 徒歩 3 分

※タクシー直接乗入れは不可

現在工事のため、来園者用駐車場はございません。



開園時間

入園料 無料（2025 年 3 月時点）

休園日 毎週月曜日、年末年始

祝日の場合は翌日

開園時間 9:00 ～ 16:30（最終入園 16:00 まで）

問合せ先

明治記念大磯邸園インフォメーション

TEL：0463-61-0101 9:00-16:30(休園日除く)

詳しくは明治記念大磯邸園ホームページをご覧ください。

<https://www.meijikinen-oiso.jp/>



発行 国土交通省 関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所

〒190-8558 東京都立川市緑町 3173 TEL. 042-524-1516

<https://www.ktr.mlit.go.jp/showa/>

事業概要

平成 30 年（2018）に明治元年（1868）から起算して満 150 年に当たることを踏まえ、明治以降の近代化の歩みを次世代に残すため、国は地方公共団体等と連携して「明治 150 年」関連施策を推進することとしました。明治以降の近代化の歩みを伝える重要な取組の一つとして、立憲政治の確立等の歴史や意義を後世に伝えていくため、明治記念大磯邸園を設置することが、平成 29 年（2017）11 月 21 日に閣議決定されました。

大磯町は江戸時代に東海道の宿場町として栄えました。富士山、三浦半島が望めるなど自然景観に優れ、行楽の地としての魅力をもつ大磯は、明治時代になると医師であり政治家であった松本順が海水浴の効能を広め、明治 18 年（1885）に日本では初めての療養を目的とした海水浴場を開設したことで人気を博しました。さらに明治 20 年（1887）に東海道線の大磯駅が開業したことで、別荘地として急速に発展しました。このような歴史を踏まえ事業地として選定されました。



「大磯海水浴富士遠景図」（明治期）大磯町郷土資料館 所蔵

邸園とは神奈川県が推進している「邸園文化圏再生構想」に由来しています。この構想は、相模湾沿岸地域一帯の歴史的遺産である邸宅や庭園等を公民連携により、新たな文化発信の場や、地域住民と来訪者による多彩な交流の場として保全・活用し、地域の活性化につなげるものであり、邸宅と庭園をあわせて「邸園」と称しています。

事業経緯

2008 年（平成 20 年）	11 月	旧滄浪閣（伊藤博文別邸跡・旧李王家別邸）5 棟 附 敷地 1 筆、杉戸絵 4 枚 大磯町文化財指定（令和 2 年 12 月指定事項変更）
2017 年（平成 29 年）	11 月	「明治記念大磯邸園（仮称）」の設置を閣議決定（11 月 21 日）
2018 年（平成 30 年）	10 月	「明治記念大磯邸園 明治 150 年記念公開」の実施
2019 年（平成 31 年 ／令和元年）	4 月	「明治記念大磯邸園基本計画」を策定
	10 月	大隈・陸奥地区 庭園工事開始
2020 年（令和 2 年）	8 月	旧大隈重信別邸・旧古河別邸 1 棟 附敷地 2 筆 大磯町文化財指定
	8 月	陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸 1 棟 附敷地 2 筆 大磯町文化財指定
	11 月	第一期開園（大隈・陸奥地区 庭園一部公開）
	12 月	旧ホテル滄浪閣ホール棟 1 棟 大磯町文化財指定
2021 年（令和 3 年）	1 月	滄浪閣地区 庭園工事（基盤整備）開始
	4 月	大隈・陸奥地区 開園区域拡大（町区域）
	6 月	明治記念大磯邸園 邸宅保存活用計画を策定
	10 月	西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸 3 棟 1 基（主屋、車庫、ポンプ室、門）大磯町文化財指定
2022 年（令和 4 年）	2 月	大隈・陸奥地区 邸宅改修工事開始
	10 月	大隈・陸奥地区 開園区域拡大（町区域）
	11 月	旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸） 邸宅改修工事開始
	11 月	西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸 邸宅改修工事開始
2024 年（令和 6 年）	7 月	大隈地区 邸宅改修工事完了
	8 月	陸奥地区 邸宅改修工事完了
	11 月	大隈・陸奥地区 邸宅公開開始

- ・積層する歴史を踏まえ、現存する邸宅及び庭園が有している歴史的・文化的価値を保存し、後世に継承するための整備を行います。
- ・各邸宅及び庭園の保存・修復等の目安とする時代を設定します。歴史的資料等を踏まえ、復原の可能性も含む調査・検討を行った上で、邸宅及び庭園の修復を行います。その際、できる限り現在用いられている部材等を活用するよう努めます。
- ・各邸宅及び庭園の活用にあたっては、その歴史的・文化的価値を尊重しつつ、本邸園の基本理念及び基本方針の実現に必要な機能の確保、来場者の安全確保等に必要な整備を行います。
- ・邸宅以外の用途で増改築された既存の施設等は、風致の保全及び公園利用の観点から、必要に応じて改修・解体等を行います。

邸宅の紹介

～大磯町指定有形文化財（建造物）～

そうろうかく いとうひろぶみ りおうけ 旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）

「滄浪閣」は、初代内閣総理大臣である伊藤博文が明治29年（1896）に大磯に建てた別邸を翌年（1897）本邸とした邸宅の呼称です。伊藤の没後は李王家に譲渡され、別邸として使用されましたが関東大震災により倒壊し、建て直されました。第二次世界大戦後、商業施設として増改築されましたが、終戦まで滄浪閣の名が継承され、大正期のモダニズムの雰囲気が残されています。



（出典：大磯町教育委員会「大磯のすまい」）

建築年：大正15年（1926）
建築面積：
旧滄浪閣：約556.16㎡（改修前：約1341.90㎡）
旧ホール棟：約200.23㎡ ※旧ホール棟も含む
延床面積：
旧滄浪閣：約546.90㎡（改修前：約1390.28㎡）
旧ホール棟：約238.08㎡ ※旧ホール棟も含む
構造：
旧滄浪閣：木造平屋建て、鉄板葺（一部棧瓦葺）
旧ホール棟：木造（1F）鉄筋コンクリート造（B1F）
棧瓦葺
旧食堂：木造平屋建て、スレート葺
旧チャペル：鉄骨造、銅板葺 ※解体



伊藤博文（1841～1909 山口県出身）

内閣制度の創設や明治憲法の制定の中心的人物で、立憲政治の確立に向け大きな役割を果たしました。初代及び第5、7、10代内閣総理大臣、立憲政友会初代総裁、韓国統監府初代統監。

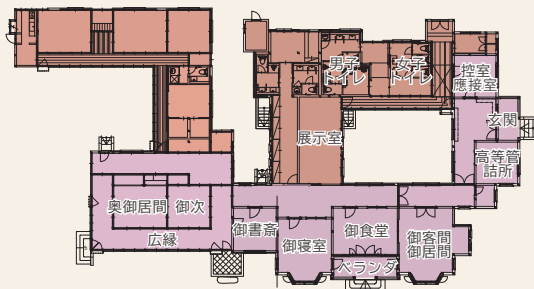
（国立国会図書館蔵）



リ・ギン 李垠（1897～1970 大韓帝国最後の世子・皇太子）

明治40年（1907）に伊藤ら日本政府の働きかけで日本に留学。皇族の梨本宮（なしもとのみや）家の長女女子王と結婚しました。伊藤から譲り受けた滄浪閣が関東大震災で倒壊したが建て直し、大磯別邸として使用しました。

（『流れのまゝに：李方子自叙伝写真集』（1978.10）明恵会）



保存部分
保全部分
その他部分

おおくましのぶ ふるかわ 旧大隈重信別邸・旧古河別邸

旧大隈別邸は、大隈重信が明治30年（1897）に大磯に別邸として購入し増改築した邸宅です。明治34年（1901）に古河市兵衛（古河財閥創業者）に売却され、古河別邸や民間企業の迎賓施設として利用されました。外観等に改造が施されたものの、構造及び内部は当初の趣をよく伝え、落ち着いた仕様に海浜別荘らしい特徴が見られます。海浜別荘地・大磯の創建期の別荘建築が残されています。



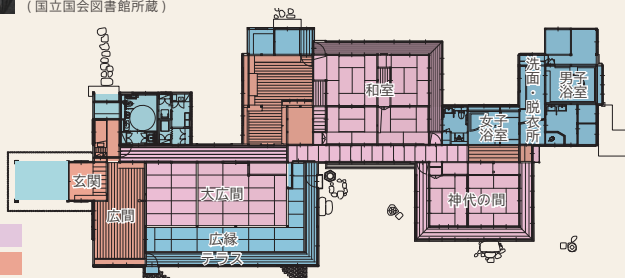
建築年：明治28年（1895）
建築面積：約410.89㎡（改修前：約412.77㎡）
延床面積：約388.42㎡（改修前：約388.42㎡）
構造：木造平屋建て
寄棟 金属板 瓦棒葺（一部棧瓦葺）
（創建時は寄棟 草・瓦葺）



大隈重信（1838～1922 佐賀県出身）

伊藤博文内閣時代に外務大臣等を歴任した後、第8、17代内閣総理大臣。憲政党を結成、日本初の政党内閣を組織しました。東京専門学校（現、早稲田大学）創立。

（国立国会図書館蔵）



保存部分
保全部分
その他部分

さいおんじきんもち いけだせいひん 西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸

西園寺別邸は、西園寺公望が伊藤博文の紹介で、明治32年（1899）に大磯に建てた邸宅です。滄浪閣の隣に位置することから「隣荘」と名づけられたと言われています。現在の邸宅は、西園寺から別邸を譲り受けた池田成彬（大蔵大臣経験者）により昭和7年（1932）に建築されました。生活空間の全てが洋式といった昭和初期としては数少ない本格的な洋館建築が残されています。



建築年：昭和7年（1932）
建築面積：
主屋：約475.13㎡（改修前：約457.05㎡）
旧車庫：約61.69㎡（改修前：約61.69㎡）
延床面積：
主屋：約799.85㎡（改修前：約799.85㎡）
旧車庫：約91.60㎡（改修前：約91.60㎡）
構造：
主屋：鉄筋コンクリート造（一部木造）、寄棟 瓦葺
旧車庫：木造、寄棟 瓦葺



西園寺公望（1849～1940 京都府出身）

伊藤博文内閣時代に外務大臣等を歴任した後、第12、14代内閣総理大臣。立憲政友会第2代総裁、私塾立命館（現立命館大学）を創設。

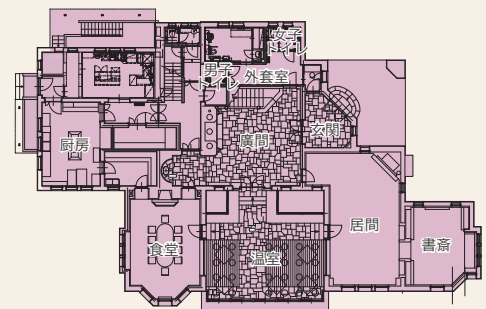
（国立国会図書館蔵）



池田成彬（1867～1950 山形県出身）

民間銀行重役を経て、昭和11年（1937）に日本銀行総裁、近衛内閣時代の昭和12年（1937）には大蔵大臣兼商工大臣となりました。関東大震災後、西園寺別邸を強固な洋館に建て替え大磯を本邸として使用しました。

（国立国会図書館蔵）



保存部分
保全部分
その他部分

むつむねみつ ふるかわ 陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸

陸奥別邸は、陸奥宗光が明治28年（1895）に病氣療養のため大磯に建築した邸宅です。陸奥の没後、次男潤吉が養嗣子となった古河家の別邸となりましたが関東大震災で一部倒壊し、栃木県足尾町（現、日光市）に移築されました。現在の邸宅は、古河家3代目当主古河虎之助により昭和5年（1930）に建築された瀟洒な数寄屋風の住宅建築が残されています。



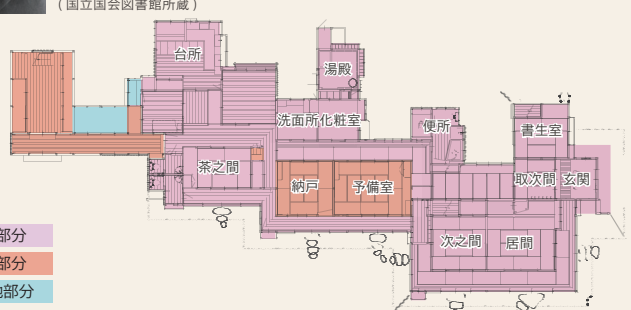
建築年：昭和5年（1930）
建築面積：約355.21㎡（改修前：約360.34㎡）
延床面積：約362.03㎡（改修前：約367.12㎡）
構造：木造平屋建て
寄棟 瓦葺
（創建時は寄棟 木羽葺）



陸奥宗光（1844～1897 和歌山県出身）

伊藤博文内閣時代に外務大臣等を歴任し、不平等条約である治外法権の撤廃に尽力し、日本の国際社会における地位回復に貢献しました。

（国立国会図書館蔵）



保存部分
保全部分
その他部分

大隈・陸奥地区 邸宅改修工事

Step1 事前調査により邸宅の現状を知る

創建以降の増改築の状況や修理を要する箇所を把握するために事前調査を行いました。その結果、土台や柱等の木部材の腐朽や全体的な耐力不足が懸念されたため、大規模な修理が必要であることが判明しました。

Step2 改修の方針を立てる

邸宅の価値を永く維持するために、各時代の痕跡を原則維持したまま修理や耐震改修を行うこととしました。

Step3 邸宅改修工事

あげや工事



あげや前



あげや実施中の様子

建物の基礎の修理や土台の補修等を行うために邸宅全体を持ち上げて工事を行いました。

←Pick UP! あげや工事

敷居の上下に鉄鋼を十字に設置しすべての柱と括り付け、油圧ジャッキで1.5m押し上げました。

基礎や壁の補強



既存基礎補強の様子

既存の基礎や壁を原則残しながら、新規コンクリートや木材で補強を行いました。

Pick UP!

障子に模した鉄骨補強建具→

邸宅の価値を減じないよう留意しつつ耐震性を高めるため、障子に模した鉄骨補強建具を設置しました。



陸奥・古河別邸の次之間

腐朽箇所への対策



腐朽状況



矧木完了後

木材の腐朽箇所のみを取り除き、新材を加工して矧木^{はぎき}を行いました。

←Pick UP! 矧木工事

旧材を最大限残しながら補修するため職人が手作業で加工しました。

屋根・内外装工事



屋根工事の様子

屋根や壁、建具等の意匠仕上げや内外装工事を行いました。

Pick UP! 多様な左官仕上げ^{さかん}→

工事中の調査の結果、大隈・古河別邸に5種類*、陸奥・古河別邸に8種類*の左官仕上げがあることが判明しました。

* 建物内壁のみ集計



左官仕上げの様子

大隈・陸奥地区 庭園改修工事

邸園の風致を保全するため、庭園の植栽、景観物等を修復・保全する工事を行っています。



ツツジ園



バラ園



多行松



ししおどし